

胃X線検査を受けられるかたへ

胃部X線検査とは…

胃部X線検査とは、バリウムという白い液体と顆粒の発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲んでいただき、食道、胃、十二指腸の病気を調べる検査です。

バリウムを飲むことで胃や食道などの形が分かり、さらに右・左と動いて頂きバリウムを胃のなかで流すことで、病変を見つけることが可能になります。



胃部X線検査の一番の目的は、

胃がんの早期発見

です。

胃がんは早期発見すれば、治癒可能です。

しかし、治る早期胃がんは、ほとんど自覚症状がなく、胃が少し重たいとか軽度の痛みを感じる程度です。したがって、自分では健康だと思っても、定期健診を受け早期発見をすることをおすすめします。

バリウムと発泡剤はなぜ必要か??

バリウムを飲まないで腹部の写真を撮影しても胃は写りません。

バリウムを飲んで、胃の内壁全体にバリウムを塗りつけて胃の撮影を行います。以前に比べ、バリウムの性能が改良され少ない量でも胃全体を覆っている胃液に負けず胃の粘膜に付着するようになり、250ccから150ccにバリウムの量は減りました。

バリウムがドロドロしていて飲みにくいのも、胃液に負けないためです。このドロドロ感も改良され以前より飲みやすくなっています。

発泡剤は胃を膨らませるお薬です。

胃を膨らますことによって、小さな病変を発見することが可能になります。胃を膨らませるのは、胃の中のひだを伸ばして詳しくみるためです。

げっぷをすると胃がしぼんでしまい、胃のひだに隠れた小さな病変を見落としてしまう可能性があります。例えるなら、胃は風船のようなもので、よく膨らんだ風船に描かれた絵は大きくハッキリと見えますが、空気が抜けて萎んだ風船では、描かれた絵は小さくなり細かいところが見えなくなってしまいます。

げっぷが出そうになったら、
唾を飲み込むようにして我慢してください



どうしてたくさん動くのか??

検査中、体を動かしながら撮影するのは胃をいろいろな角度から撮影し、バリウムを胃の粘膜面（壁）にまんべんなく付着させるためです。2回3回と回転したり、左右に動いていただくことで、胃液を除去しバリウムを胃壁全体に均一に付着させることができます。

何度も体を動かすことはしんどいとは思いますが、その結果、病気を見つけることのできる確率が上がり、より精度の高い検査を行うことができます。

より良い検査の為に、ご理解とご協力をお願いいたします。

※バリウムコップに浮いている黒い物体はゴミではありません。

バリウムは、鉱石を粉砕して粉にし、それに添加物を混ぜて使用しています。その中に黒い浮遊物が認められることがありますが、添加物・鉱石の一部が浮遊しているものです。有効性・安全性には問題はありません。